

令和5年度第2回 川崎市社会教育委員会議幸市民館専門部会 次第

令和5年9月25日（月） 午後2時から

幸市民館 第1会議室

1 開 会

2 館長あいさつ

3 会長あいさつ

4 議 事

- (1) 摘録の確認について
- (2) 管理運営実施状況等について
- (3) 社会教育振興事業について
 - ア 幸市民館社会教育振興事業
 - イ 日吉分館社会教育振興事業
- (4) 調査・審議事項について
- (5) その他

5 次回以降の日程について

第3回 令和5年12月11日（月）午後2時～ 幸市民館第1会議室

第4回 令和6年____月____日（____） ____時～ _____

6 閉 会

【資料1】 令和5年度第1回川崎市社会教育委員会議幸市民館専門部会 摘録（案）

【資料2】 管理運営実施状況等

【資料3-1】 社会教育振興事業実施状況等（幸市民館）

【資料3-2】 社会教育振興事業実施状況等（日吉分館）

【資料4-1】 幸市民館専門部会 審議計画（案）

【資料4-2】 幸市民館専門部会報告書 案（夏井委員）

【資料4-3】 幸市民館専門部会報告書 案（片岡委員）

・事業募集チラシ（幸市民館・日吉分館）

・ステージアップ（川崎市生涯学習財団）

資料 1

令和5年度第1回 川崎市社会教育員会議幸市民館専門部会 摘録（案）

日 時 令和5年6月29日（木） 午後2時～午後4時30分
場 所 幸市民館 第1会議室
出席者 浦山委員、梅原委員、大塚委員、片岡委員、柴田委員、夏井委員、松井委員
欠席者 小泉委員
事務局 加藤幸市民館長、鈴木日吉分館長、松本社会教育振興係長、松下管理担当係長
説明者 教育委員会事務局生涯学習推進課 鈴木課長補佐

1 開 会

2 館長あいさつ

3 会長あいさつ

4 議 事

（1）あたらしい幸市民館・図書館を考えるワークショップについて

～生涯学習推進課から第1回から3回目までの開催概要について説明～

【質疑応答】

大塚委員 2回目まで参加して3回目は欠席したのだが、3回目で出た代表的な意見はあるか。

生涯学習推進課 一例で言うと「屋上緑化」というキーワードが出て、そこからボランティアが管理する「屋上庭園」を造ってみてはどうかという意見があった。図書館に関しては声を出して良いスペースと静かに本を読みたいスペースとに分けて子どもたちが声を出ることが出来る自由な部屋があっても良いという意見もあった。

夏井委員 幸市民館・図書館の整備はいつくらいの時期で、どのような程度のものを予定しているか決まっていれば教えてほしい。指定管理者制度との絡みもあるし、ワークショップで出た意見も建物が新しくならないとできないことも多い。

生涯学習推進課 現時点では具体的に決まったものは無い。老朽化対策をしていくにあたり、どのような形で整備していくか予算的な制約もある中で教育委員会、総務企画局とで最大限、ワークショップの意見等を反映できるよう検討していきたい。

松井委員 ワークショップで将来こうあれば良いという意見は分かったが、今すぐにでも変えたい問題や今の状態でも変えられる問題もこの意見の中には含まれているのか。5年、10年先でないと変わらない問題なのか今の段階でも検討して進めていける問題なのか。飲食の可能なコーナーは、それほど時間をかけなくても実現できると思うが、小さい子どもが声を出して遊べるスペースは子育て中の親が望んでいる部分かもしれないので、いつこれが変えられるか分からないというのではなく、今の状態でも変えられる問題というものも併せ持って考えていけると良いと思う。

生涯学習推進課 ワークショップ自体は新しい市民館・図書館を造るうえでの参考としている
ものではあるが、運用面で解決できるものは市民館・図書館と情報共有していければと思う。

(2) 前回専門部会の摘録について【資料1】

浦山議長 委員からの疑義無し。内容について参加委員から承認された。

(3) 管理運営・実施状況等について

事務局から【資料2】に基づいて説明

【質疑応答】

梅原委員 Wi-Fi の設置状況についてどうなっているか。

事務局 Wi-Fi については3月に工事を実施。会議室等については有線 LAN の使用が可能となった。教育委員会から用意された無線の Wi-Fi のルーターを貸し出しして室内であれば無線で Wi-Fi が使える状態になっている。受付の職員に申し出ればセットするし、体育室、第4会議室ともに使用可能である。

浦山委員 各部屋とも有線の差し込み口があり、そこに3台のルーターを貸し出ししており、当日申請書を受付に提出すれば使用可能ということによろしいか。

事務局 その認識で間違いない。

夏井委員 ルーター3基の申請が重なったことはあるか。または重なった場合はどうするか。

事務局 今までのところ、重なったことはない。重なった場合は先着順となるが、無線がなくても有線での利用が可能な状態にはなっている。

(4) 社会教育振興事業について

ア 幸市民館社会教育振興事業

イ 日吉分館社会教育振興事業

いずれも事務局から【資料3-1】、【資料3-2】に基づいて説明

【質疑応答】

梅原委員 昨年度は市民館の「幸文化センター祭」と日吉分館の「さくらフェスタ日吉」が同日開催になっており、やりにくいところがあったが今年度はどうか。

事務局 今年度は日程が重ならないよう開催する予定である。

夏井委員 市民自主学級の「吾妻鏡から川崎地域を読み解く」は前回の委員の意見を反映して、吾妻鏡と幸区を関連付けて講座を開いており、多数の応募がある人気講座になっているようで良かった。

浦山委員 市民館のもう一つの自主企画である「親子で学ぶキャンプと防災」は残念ながら雨天開催になってしまったようであるが。

事務局 応募多数で抽選になったが当選者のグループも3組が雨天を理由に当日キャンセル連絡があった。多くの落選者も出る中で、せっかく当選した1家族(枠)であるが、主催者側と当選者側と重みのズレが出てしまったと感じている。

浦山委員 趣味のキャンプだけでなく、災害と結び付けて役立つ講座にしてほしいという委員の意見があったと思うが、こちらもそれが反映されたものになったのではないか。日吉分館の自主企画事業の「まちのお茶の間事業」はどんな感じか。

事務局 テーマが前回の「まちのテーブル」に類似している点、世代間交流という点が委員から課題として出ていたと思うが、提案者とは1回の開催の中で全ての世代を呼び込むのは難しいと考え、今年度は1回ごとにテーマを絞ってその中でまずはコミュニティ作りをしてもらい、今後それをどう多世代交流に繋げていくか一緒に考えていくこととした。今年度だけでなく来年度以降も見据えて講座作りをしていく方向になっている。

浦山委員 ぜひ職員が各テーマで作られたコミュニティを連携させていくサポートをしてほしい。団体側だけでなく全体が見える職員でないと、なかなか連携していくことは難しいものだと思うので。

(5) 審議テーマについて

浦山委員 まずは各委員から出してもらった地域が抱える差し迫った課題について順番に説明してもらい、皆で共有したい。その後、質問や意見交換をして、今後の進め方について考えていきたい。具体的に次回の9月25日までに何を準備していくかを話し合っていきたいと考えている。今日を含めて残り4回で2月までに報告書をまとめる必要があるため、全体スケジュールからやるべきことを確認していきたい。

～「地域課題等への委員意見」の資料に基づき各委員から説明～

【意見交換】

片岡委員 幸区の特徴は皆さんが出してくれた課題から見えてきたところがある。マンション、集合住宅に住んでいる若い働き手、親子連れが増えている一方で高齢化も進んでいる。新しい移住者も増え、長くいる住民との繋がりも希薄であり典型的な都市化した地域と言える。市民館がそこにどう関わりを持つかが問われていると思うが、これまでの市民館の事業だけでは、その状況に対応するのは難しくなっている。今までは地域の繋がりを前提として市民館の事業は実施されてきたところがある。市民館だけでなく民間の活動とどう繋がるかを新たに考えていく必要がある。1人暮らしで満足している人もいる一方で孤独を感じている人をどう救済するか、不登校も悪いことでは無いのだが、そうした子どもたちに、地域がどういった受け皿を持っているか考えなくてはならない。単身者が増

えているのも現在の傾向で、かつての地域社会を取り戻すことは難しい。現状に即した形で何が足りないのかを考えていかなければならない。

大塚委員 課題については、市民館・日吉分館に関係するもの、審議テーマのサブタイトルに寄せたものに今回はもう少し絞って取り上げてはどうか。前回は課題の範囲はまずは狭くせず広くした方が様々な意見も集まりやすいという話ではあったが、課題に対しての対策を議論するうえで、課題はもう少し整理した方が良いと個人的には感じる。もちろん進め方は色々あると思っているが。

松井委員 皆で手を繋いで仲良く市民館に足を運ぶと言う時代ではなくなっている。1人で行く人もいれば、繋がりを求めない人もいる。特に若者にはその傾向があるのではないか。多様性の時代で、人を広く見る必要があり、新しい切り口で市民館良さをアピール、利用を促すことを提案できたら良いと思う。一方で、寂しくて困っている人もいるわけで、市民館に行くのは何も立派なところに行くということではなく、困っている人も安心して行ける場所だと感じてもらえれば良いと思う。

夏井委員 審議テーマが「笑顔と多様な夢を育む学び舎を目指して」となっている。社会教育であるから学ぶ場である。「学び」を通した「人・つながり・地域づくり」にしていけないと市民館のやることと離れてしまう。学ぶ場所は提供する場合もあれば、提供を受ける場合もある。相互にできる場が市民館であり、それをコーディネートしていくのが市民館職員であると思う。全て与えられるものではなく自ら進んで実施していく時代。ただ、市民館は敷居が高いと感じている市民もいると思うので、例えば「会議室」ではなく「フリースペース」があって気軽に立ち寄って、多くの選択肢があるような市民館であれば、「笑顔と多様な夢を育む」というところに繋がっていくのではないか。

片岡委員 市民館と地域の住民が取り組んでいることが別々のものではないというのが前提で、市民館が出来ること、出来ないことを明確にしてまとめていく方法が良い。そのためにはまず地域の課題を知らないといけないということで今は情報を共有している段階。悪いことではないが、単身世帯や不登校の増加による孤立や孤独といった地域課題を視野に入れて最終的には市民館の学びを作り直していく必要がある。単身で生活している人を無理やり市民館に誘導するというわけではなく市民館の学びが、そういった人を視野に入れた学びになっていくことが大事。

柴田委員 市民館の名称は知っていても実際にどんなことが出来るのか分かっていない人は非常に多いと思う。学び舎として各々が自由な方法で、誰もが安心して利用できる市民館にするにはどうしたら良いかを考え、市民館のことをあまり知らない人たちにも市民館に足を運んでみようと思えるようにしていけたら良い。4月に宮前区から幸区に戻ってきたが、登校時間に小学生だけでなく中学、高校生

でも挨拶をしてくれる子が幸区はとて多い。周りに単身者のアパートやマンションもあるが、何度か会ううちに向こうから挨拶もしてくれる。親御さんの話からも誰かと繋がりたい親子も多くいると感じる。人と繋がりたい人が他地域より多い点なども記載できたらいいなと思っている。

浦山委員 夏井委員が章立てまで考えてくれているので、この章立てに合わせて報告書を作成していきたい。思考のプロセスについては片岡委員が3段階の視点を入れてくれたので、章立てのどこかに入れて展開していく。各委員から今回提出された課題を章立ての中に入れ込むのは私がやるので、流れなどに問題点が無いか、夏井委員、片岡委員に確認してもらいたい。次の部会でそれを各委員に見てもらう。全体で眺めて改善点等ないか皆で議論、整理する。その後、各章の受け持ちを分担する。報告書として通しのシナリオが完成しているので、分担しても方向性が外れることは無い。

大塚委員 分担する箇所も得意、そうでない箇所もあるので、やりにくさを感じる委員もいるのではないかな。各委員がそれぞれ違う課題を出しているのに対して1つずつ各々で対策や提言をしていく方法もあると思う。

浦山委員 その方法だと各委員がバラバラに出してきた課題と対策をまた一からまとめ直していく必要がある。時間がかかり過ぎて大変でうまくいかないと思う。

夏井委員 「幸市民館・日吉分館の学級・講座・事業の現状と分析」を章立ての中に組み入れている。市民館の方で過去から今年度までを含めた現状について出してもらいたい。市民・参加者の声を拾ったアンケート等があると思うが。

事務局 全ての事業に当てはまる「共通アンケート」はあるが、あとは自由記述の細かいところをどれだけ拾えるかとなるが、見てみないと分からない。

夏井委員 全ての事業ではなく、青少年事業など、幾つかに特化しても良い。特徴的な学びについてのアンケート結果から代表的な意見を拾えれば。「謎走中」のように中学生・高校生が企画提案者になっていくなど、次に繋がる事例が大事なので、良い点、悪い点含めて出してもらって課題の抽出、解決を図れば良い。

事務局 サブタイトル「人・つながり・地域づくりを進める幸市民館」に寄せた事業の特徴的なものを挙げていきたいと思う。

片岡委員 専門部会では市民館の課題を抽出するところまで出来れば良い。課題の解決、対策を行うのはまた別で、専門部会ではそこまでやるものではない。課題を見つけるのが今回の調査目的である。課題が何か分からないというのが市民館事業の将来が見えにくいところだと思う。課題を考えるだけでも大変なことだと感じている。課題が立てば自ずと対策も見えてくる。市民と市民館の課題をどう重ねていくか見えてくれば今回の目的は達成されたものではないかと思う。

大塚委員 本日の話を整理すると浦山議長が中心となって夏井委員、片岡委員、市民館に確認を取りながら、章立ての中で一旦まとめてもらう。それを次回の部会で議論

して、各章の分担を決めていくという流れで良いか。

浦山委員 それで良いと思う。夏井委員が章立てしてくれたものをベースにしながら各委員の今回の意見を入れ込んでみる。

大塚委員 まとめてもらったものをみて、また皆で議論できれば。得手不得手な分野が各々あるので、そこは相談しながら進めていきたい。

5 その他

次々回の日程調整を行い、以下の通り決定した。

次々回日程について、12月11日（月）午後2時（幸市民館 第1会議室）

※次回日程は9月25日（月）午後2時（幸市民館 第1会議室）

6 閉 会

資料 2

幸市民館 管理運営実施状況等

1 日常管理について

施設の受付・設備保守・舞台運営・清掃などの業務に関して、各委託業者と連携・協力しながら利用者が快適に施設を御利用いただけるように管理運営を行っております。

2 補修工事について

	工事件名（内容）	施工場所	施工時期
1	大会議室防火ダンパー補修工事	大会議室	令和5年11月
2	舞台調光設備調光器盤等補修工事	ホール	令和5年11月
3	ホール2階防火扉等補修工事	ホール	令和5年11月～
4	排気ファンモータ修繕工事	3階機械室	令和5年10月～ 令和6年2月
5	大ホール客席座面等補修工事	ホール	令和5年12月～ 令和6年2月
6			

令和 5 年度 第 2 回幸市民館専門部会
幸市民館・社会教育振興事業

1 識字学級

(1) 午前コース (水曜午前)

第 1 期 5/10～7/12 計 10 回

登録者 24 名 ・ ボランティア 13 名

第 2 期 9/6～12/13 計 15 回

登録者 名 ・ ボランティア 名

第 3 期 1/10～3/13 計 10 回

登録者 名 ・ ボランティア 名

(2) 夜間コース (木曜夜間)

第 1 期 4/13～7/27 計 13 回

登録者 26 名 ・ ボランティア 13 名

第 2 期 9/5～12/14 計 12 回

登録者 名 ・ ボランティア 名

第 3 期 1/18～3/7 計 6 回

登録者 名 ・ ボランティア 名

2 識字ボランティア研修

夜間コース (全木曜日) ブラッシュアップ研修

(ボランティア 13 名対象)

回	日程	内容	講師	参加者
1	6/22	学習者のニーズをふまえた識字日本語学習活動の課題や疑問について考える	人材育成コーディネーター 吉田 聖子	11 名

ボランティア入門講座

(定員 20 名・申込 10 名・延人数 64 名)

回	日程	内容	講師	参加者
1	5/24 (水)	川崎市が目指す識字・日本語学習活動理念、ボランティアのあり方	川崎市国際交流協会 島田 秀雄	7 名
2	5/31 (水)	幸日本語学級 (昼) を見学する	ボランティアスタッフ	6 名
3	6/ 8 (木)	地域で暮らす外国人市民の実情を知る	市民文化局多文化共生推進課 高橋 誠一	9 名
4	6/16 (金)	日本語ボランティア活動の基礎を学ぶ	明海大学 外国語学部准教授 西川 寛之	5 名
5	6/23 (金)	同上	同上	7 名
6	6/30 (金)	日本語ボランティアの役割について学ぶ	人材育成コーディネーター 吉田 聖子	6 名
7	7/ 7 (金)	同上	同上	6 名
8 ・ 9	7/11 (火)	ふれあい館識字学級を見学する	ボランティアスタッフ	4 名
	7/12 (水)	幸日本語学級 (昼) を見学する	ボランティアスタッフ	2 名
	7/13 (木)	幸日本語学級 (夜) を見学する	ボランティアスタッフ	4 名

	7/18 (火)	にほんごワールドを見学する	ボランティアスタッフ	3名
10	7/26 (水)	川崎市が目指す識字・日本語学習活動を理解する	川崎市生涯学習財団 中村 高明	5名

3 障がい者社会参加学習活動「サンデーフレンドパーク」 (全日曜日) (登録者 16名)

回	日程	内容	参加者
1	5/14	顔合わせ・オリエンテーション [幸市民館]	10名
2	6/11	マリンタワー・氷川丸 [横浜市中区]	12名
3	7/9	はまぎんこども宇宙科学館 [横浜市磯子区]	13名
4	9/10	小田原城・小田原市尊徳記念館 [小田原市] [バスハイク]	12名
5	10/8	ボッチャ体験 [幸市民館]	名
6	11/12	靖国神社 (遊就館)・日本武道館周辺 [東京都千代田区]	名
7	12/10	クリスマス会 [幸市民館]	名
8	1/14	太鼓体験 [幸市民館]	名
9	2/11	手賀沼公園・鳥の博物館 [我孫子市]	名
10	3/10	お楽しみ会 [幸市民館]	名

4 平和・人権・男女平等推進学習

(1) 古代官衙につどう人々 ～橘樹官衙遺跡群の発掘を通じて～

全2回 日曜日同開催 (定員 40名・1申込 49名、2申込 41名・延人数 78名)

回	日程	内容	講師	参加者
1	7/2	古代官衙につどう人々 ～橘樹官衙遺跡群の発掘を通じて～	東京大学名誉教授、横浜歴史博物館館長 くまもと文学・歴史館館長 佐藤 信	43名
2	7/2	史跡橘樹官衙遺跡群の見学	文化財課学芸員 栗田 一生	35名

(2) 多文化共生について (仮)

5 青少年教室事業 (小・中・高校生対象事業)

7/28・「謎走中! 2023 (めいそうちゅう 2023) ～奪われた宝を取り戻せ～」 延べ参加人数 15名

9/23・「謎走中! 2023 (めいそうちゅう 2023) ～壁の向こうの謎を解き明かせ～」 延べ参加人数 名

6 成人教室 (成人対象事業)

上記、青少年教室事業とともに実施

7 シニアの社会参加支援事業

・「相続講座 (仮)」 全2回 全土曜日 (定員 名・申込 名・延人数 名)

回	日程	内容	講師	参加者
1	12/2	相続関係 (仮)	明治安田生命による	名
2	12/9	同上	明治安田生命による	名

8 高齢者セミナー

(1) 「すいみんと健幸～睡眠満足幸せの一步～」

全3回 全水曜日 (定員 20 名・申込 10 名・延人数 26 名)

回	日程	内容	講師	参加者
1	5/31	よい睡眠をとるための方法 「実感する」3つのステップ	明治安田生命による	9 名
2	6/ 7	お悩み別の解消方法 寝室の睡眠環境と寝具選び	明治安田生命による	6 名
3	6/14	睡眠と健康について 健康診断の大切さ	川崎市立井田病院 奥 佳代	11 名

(2) 飛び出す市民館

回	日程	内容	開催依頼主	講師	参加者
1	4/27 (木)	オカリナ演奏	河原町団地 7, 8, 9 号棟自治会	中村 純子	14 名
2	6/ 9 (金)	オカリナ演奏	リアンレーヴ川崎幸	中村 純子	35 名
3	7/21 (金)	オカリナ演奏	デイサービスセンターアライブ	中村 純子	8 名
4	9/29 (金)	オカリナ演奏	デイサービスセンターアライブ	中村 純子	名

9 家庭・地域教育学級

・「遊びって大切！」

全5回 (定員 名・申込 名・延べ人数 名)

回	日程	内容	講師	参加者
1	10/13 (金)	2・3歳児の年齢にあったおもちゃは？ 遊び方も教えて！	東京おもちゃ美術館 おもちゃコンサルタント 大竹沙希子	名
2	10/26 (木)	遊びから学ぶことはどんなこと？	洗足こども短期大学講師 伊藤 路香	名
3	10/31 (火)	子どもと一緒に英語のリトミックをしよう♪	Rhymoe インストラクター 大竹沙希子 島田可奈子	名
4	11/ 7 (火)	遊びの中での子どもの気持ちを考えてみよう	幸区地域みまもり支援センター 保育士 渡邊 由紀江	名
5	11/16 (木)	親子で遊べるおもちゃを作ろう	幸区地域みまもり支援センター 保育士 渡邊 由紀江	名

10 市民館保育活動

各講座に応じて適宜実施 (同室・別室保育)

(1) 識字学級

(2) 家庭・地域教育学級

11 PTA家庭教育学級講師派遣

各小学校 PTA の計画により実施

12 子育て支援啓発事業（第2，4火曜日午前）

1期：対象：主に3歳未満のお子さんとその保護者

（1）6/13 保育士さんと遊ぼう 参加者：27名

（2）7/11 手形を取ろう 参加者：31名

2期：対象：主に3歳未満のお子さんとその保護者

（1）9/12 保育士さんと遊ぼう 参加者：30名

（2）12/12 保育士さんと遊ぼう 参加者：名

（3）R6.1/23 足形を取ろう 参加者：名

（4）R6.2/27 保育士さんと遊ぼう 参加者：名

13 市民自主学級

（1）「吾妻鏡から川崎地域を読み解く」

対象：原則としてすべての回に参加可能な方 【実施団体：さいわい歴史の会】

全5回 全土曜日（定員40名・1申込83名、2以降申込68名・延人数 名）

回	日程	内容	講師	参加者
1	6/3	「吾妻鏡」の時代～武家を考える～	前日本大学文理学部教授 関 幸彦	76名
2	7/8	「吾妻鏡」にみる多摩川流域の武士の活躍	駒澤大学非常勤講師・京都芸術大学非常勤講師 角田 朋彦	58名
3	8/5	「吾妻鏡」にみる多摩川流域の郷・荘・道	同上	51名
4	9/9	鎌倉御家人・加世氏と賀勢荘	同上	47名
5	9/30	「吾妻鏡」を手掛かりに、中世の幸区をひも解く	同上	名

14 市民自主企画事業

（1）「親子で学ぶキャンプと防災」

対象：防災・災害対応に関心のある方、または親子 【実施団体：クロキャン】

全3回全日曜日（1,2定員30名、3定員100名・1申込165名、2申込120名、3申込147名・延人数 名）

回	日程	内容	講師	参加者
1	6/11	・テント設営 ・災害時避難について ・リスクウォッチ ・蓄電池について	スノーピーク武蔵小杉店 幸区役所危機管理担当 （社）RISK WATCH 奥田 悦子 株）ライノプロダクツ	23名
2	9/10	同上	同上	31名

3	11/12	ロープワーク&火おこし	川崎市黒川青少年野外活動センター 職員	名
---	-------	-------------	------------------------	---

15 市民エンパワーメント研修

・「はじめての絵本作り応援講座」 全4回 全土曜日（定員20名・申込8名・延人数 名）

回	日程	内 容	講 師	参加者
1	9/9	4種類の技法を楽しもう！	イラストレーター 平澤 朋子	7名
2	9/23	ページ毎のイメージを決めて、下書きしてみよう！		名
3	9/30	好きな画材を使って本描きしよう！		名
4	10/7	既存の本の装丁などを見ながら表紙を作ろう！		名

16 市民講師活用事業（育成・開設）

・「より 伝わりやすい話し方」 全1回 日曜日開催（定員20名：申込 名：延人数 名）

回	日程	内 容	講 師	参加者
1	11/5 (日)	人に伝わりやすい話の構成や発声を学ぼう	株式会社メディアンプロモーション 代表取締役 牛窪万里子	名

17 P T A活動研修 全6回（延人数：当日会場参加人数 名・当日 Zoom 参加人数 名・後日視聴者 名）

回	日程	内 容	講師	参加者
1	5/26 (金)	家庭教育学級説明会	職員	15名
2	6/17 (土)	P T Aの意義、会則変更について	川崎市P T A連絡協議会長 浦山 利博 前川崎市P T A連絡協議会長 舘 勇紀	5名
3	9/30 (土)	P T AのI C T化	東小倉小学校 P T A 会長 清水 宣暁	名
4	10/19 (木)	P T Aのお金の使い方と管理	古市場小 P T A 会長 (幸区 P T A 会長) 加々美 京子	名
5		子ども放送局		名
6		各校の家庭教育学級の取組発表	社会教育振興係職員	名

18 生涯学習交流集会「さいわい学びの広場」

19 学習情報提供・学習相談事業（第1，3金曜日午後）

第1期 4/21～7/21（全6回） 延べ人数16名

8/4（金）夏休みイベント「3Dメガネをつくろう！」（夏休み基地と同日開催）参加者33名

20 行政区・中学校区・地域教育会議推進事業

9/16（土）市民館ジャック

10/10（火）市民館キャンプ

1/20（土）ニューイヤーフェスタ

2/3（土）子ども会議

2/24（土）教育を語るつどい

21 地域学習・文化団体連携推進事業

7/22（土） 親子体験会

9/23（土・祝）幸区文化講演会（ピアノ演奏）

11/11（土）～11/12（日）幸区文化祭

22 現代的課題学習事業「もっと知りたい、メディアやデジタル情報とのつきあいかた」

全2回 （定員：30名・申込：28名・延べ人数：49名）

回	日程	内容	講師	参加者
1	7/25 (火)	テレ朝出前講座 ニュースの舞台裏 ～アナウンサー体験もしてみよう～	テレビ朝日広報局 お客様フロント部 田邊 美樹	26名
2	7/26 (水)	安全なインターネット社会のルール	一社）共生と共育ネットワーク 青山 真理	23名

23 社会教育委員会議専門部会

24 刊行・広報活動

市民館だより（偶数月発行）

25 情報機器等整備

スクリーン大が新しくなりました

26 寺子屋コーディネーター養成講座

27 幸区多文化共生推進事業

（1）多文化フェスタ 2/17（土）実施予定

28 市民館コミュニティ推進事業

（1）各提案者（団体、個人）による事業実施（随時）

回	日程	内 容	人数	回	日程	内 容	人数
1	4/6	#2 にほんごひろば	11名	2	4/7	学習相談会	7名
3	4/8	#10 子どもの寺子屋&ボードゲーム会	10名	4	4/10	和文字	8名
5	4/12	#2 葉っぱアート	9名	6	4/15	ミニカーとゴミ拾い	30名
7	4/19	シャッフル名刺で新しいワ・タ・シ	12名	8	5/19	#14 大人のかきかた	10名
9	4/23	#2 算数で学ぶプログラミング的思考	11名	10	4/28	カサの音色をきいてみませんか	13名
11	5/1	#3 にほんごひろば	5名	12	5/7	子どもの寺子屋&ボードゲーム会	9名
13	5/12	だれでもカフェ	8名	14	5/13	#4 にほんごひろば	8名
15	5/16	That's 学 cafe	3名	16	5/17	#3 葉っぱアート	7名
17	5/19	#15 大人のかきかた	7名	18	5/20	工作ひろば	40名
19	5/22	スマホで撮影会	18名	20	5/23	タティングレース	2名
21	5/26	カサの音色をきいてみませんか	17名	22	6/2	#16 大人のかきかた	4名
23	6/7	#4 葉っぱアート	19名	24	6/9	カサの音色をきいてみませんか	8名
25	6/11	ジャガイモ収穫祭	61名	26	6/16	#17 大人のかきかた	7名

27	6/17	#5 にほんごひろば	13 名	28	6/17	工作ひろば	13 名
29	6/18	#3 算数で学ぶプログラミング的思考	8 名	30	6/21	工作ひろば	13 名
31	6/27	小さな編み物の会	2 名	32	6/28	ことばあそび「お名前短歌」	2 名
33	7/7	#6 にほんごひろば	4 名	34	7/8	#6 にほんごひろば	9 名
35	7/12	こだわり和紙で作るアクリル講座	6 名	36	7/15	工作ひろば&似顔絵	16 名
37	7/19	ことばあそび「日本語英語」	4 名	38	7/20	塗るハーバリウムオイル作り	8 名
39	7/23	12 子どもの寺子屋&ボードゲーム会	20 名	40	7/25	タティングレース	2 名
41	7/27	浴衣のおはしりを作ろう	6 名	42	7/27	IDOBATA で整う～瞑想アロマ	4 名
43	8/5	#7 にほんごひろば	3 名	44	8/9	ことばあそび「セリフは楽しい」	3 名
45	8/10	#2 塗るハーバリウムオイル作り	7 名	46	8/12	カサの音色をきいてみませんか	8 名
47	8/22	#2 小さな編み物の会	2 名	48	8/22	着なくなった服でエコバッグ作り	15 名
49	8/27	13 子どもの寺子屋&ボードゲーム会	8 名				名

9/1 現在（開催：49 回・提案団体、個人数：19・提案種類：26 種類・参加延べ人数：520 名）

（2）夏休み基地（8/4 実施・提案団体、個人数：18・提案種類：18 種類・延べ参加人数：996 名）

	内 容	人数		内 容	人数
1	オンラインボッチャ 総合科学高校&NECプロボノ倶楽部	40 名	10	カプセルキーホルダー作り E.M.☆Factory（幸区盛り上げ隊）	49 名
2	ミカ視点で学ぶゴミの世界 神領龍生（個人）	15 名	11	パフェのメモスタンド作り 1e. com（幸区盛り上げ隊）	74 名
3	資源物とごみのゆくえ 川崎市環境局	350 名	12	小さなデスク引出しデコ作り RAINBOWCLOVER（幸区盛り上げ隊）	64 名
4	SDGs マグロの森と地球と私たち 高野未怜（高 1 個人）	16 名	13	風船で弓矢を作ろう タエリン（幸区盛り上げ隊）	63 名
5	価値観を考えるカードゲーム 工藤康&（一社）レジリエンスコンサルタント協会	35 名	14	オカリナの音色をきこう じゅんじゅん	10 名
6	きみの「りんごかもしれない」をつくろう こねこねブッククラブ	20 名	15	ハンドベルコンサート&楽器体験 杉の会ハンドベル	10 名
7	燃料電池体験 省エネグループ	44 名	16	パンの発酵を学ぼう Happy Table	40 名
8	バランスボールとカカオお猿づくり たんけん工房	26 名	17	工作ひろば 阿部稔子（個人）	100 名
9	3D メガネづくり ぷらす	20 名	18	アルミ箔で何作ろう 森部隆（個人）	20 名

30 幸区御幸公園梅香事業

令和 6 年 2 月頃実施予定

令和5年度 幸市民館 社会教育振興事業 実施計画 ～多様な人と人が出会う“学びの場”づくり～

領域	事業名		事業内容	事業数 (予算:千円) 消費税を含まず	実施計画															備考
					4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
1 社会参加・推進学習事業	識字学習活動		川崎市多文化共生社会推進指針、外国人教育基本方針、川崎市識字・日本語学習活動の指針に基づき、外国人市民等が日本での生活を円滑に営めるように、日常生活に必要な基礎的日本語を身につけるための学習を支援する。また、学習者と支援者（ボランティア）が共に学び合う関係づくりに配慮し、多文化共生社会の実現をめざす。	2 (453)		① 5/10～3/13 午前コース				水曜午前	全35回程度								必要に応じてオンライン学習を取り入れる場合あり	
	識字ボランティア研修		川崎市識字・日本語学習活動の指針に基づき、識字学習活動に関わるボランティア等の資質向上に関する学習機会を提供することにより、多文化共生社会の実現をめざす。	5 (98)		① 5/24～7/26 識字ボランティア研修〔入門〕					全10回							①ボランティア入門 ②ブラッシュアップ研修		
	障がい者社会参加学習活動		地域での体験活動や交流等の学習機会を提供することを通して、障がいのある人の社会参加促進を図るとともに、ノーマライゼーションの理念に基づき、共に生きる地域社会の実現をめざす。	1 (75)								5/14～3月 「サンデーフレンドパーク」 毎月1回日曜午前・午後 全10回程度								
2 市民自治基礎学習事業	世代別学習活動	普遍的課題学習活動	平和・人権・男女平等推進学習	憲法、教育基本法の理念に基づき、世界の平和及び人権の尊重、性による差別や人権に関する問題解決に向けた学習機会を提供し、共に生きる地域社会の創造や男女共同参画社会の形成をめざす。	2 (244)				7/2 「古代官衙につどう人々」			全2回（午前・午後）								
		青少年教室事業 (小学生・中学生・高校生対象事業)		小学生・中学生・高校生等を対象として、青少年期の課題解決あるいは地域参加に向けた学習機会を提供するとともに、地域の中での仲間づくり、つながりづくりを促進する。	1 (18)		7/28 「謎走中！2023奪われた宝を取り戻せ」													
		青年教室事業 (成人対象事業)		成人期を対象として、成人期の課題解決あるいは地域参加に向けた学習機会を提供するとともに、地域の中での仲間づくり、つながりづくりを促進する。	1 (18)													上記青少年教室と同時開催		
		シニアの社会参加支援事業		シニア世代等を対象として、地域の課題解決あるいは地域参加に向けた学習機会を提供し、シニア世代等の市民が、これまで社会で培った豊富な経験と知識、多様な能力を活かし、これまで関わりの少なかった地域社会での様々な活動に参加できるよう支援する。	1 (35)										12/2、12/9 「相続講座（仮）」	全2回				
		高齢者セミナー		高齢期の課題解決に向けた学習機会を提供する。また、学習を通じた、生きがいづくりや健康づくりを推進するとともに、幸福な高齢期をおくるための支援をする。	1 (35)		5/31～6/14 「すいみんと健幸」	全3回											その他出前講座あり	

令和5年度 幸市民館 社会教育振興事業 実施計画 ～多様な人と人が出会う“学びの場”づくり～

領域	事業名		事業内容	事業数 (予算:千円) 消費税を含まず	実施計画															備考
					4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
2 市民自治基礎学習事業	子育て・共育学習活動	家庭・地域教育学級	子どもを豊かに育む地域社会の創造を目指し、子育てに関する家庭・地域課題の学習機会を提供し、親として市民としての学びを支援する。	2 (93)					①10/13～11/16「遊びって大切！」全5回										①は保育付き講座	
		市民館保育活動	親等の学習活動への参加を促進し、乳幼児の社会的成長を支援するために、主催事業に適宜併設する形で保育活動を実施する。	2 (106)																
	家庭教育推進事業	P T A家庭教育学級講師派遣	子どもの理解や親の役割及び家庭環境、家庭教育に関する地域における諸課題等についてP T Aが実施する家庭教育学級に対し、講師派遣等の支援を行うことにより、子どもの健全な育成に向けた、学校・家庭・地域の連携による学習活動の振興を図る。	(*)														報告会		
		子育て支援啓発事業	地域における身近な子育て関連情報を保護者等に幅広く提供するために、子育て情報冊子等の作成・配布や、保護者同士の交流を図るための集会等の開催を行う。	1 (*)															②はボランティアによるイベント	
3 市民学習・市民活動活性化学習事業	市民自主学級		市民と市民館の協働により、地域や社会の課題解決に市民自らが取り組むために必要な学びの場を創り、市民の主体的な学習活動や市民活動を活性化する。	1 (150)					6/3～9/30 「吾妻鏡から川崎地域を読み解く」全5回											
	市民自主企画事業		地域や社会の課題解決や地域の特性に応じた生涯学習・文化芸術の振興や、市民活動のネットワーク化の活性化等を目的として、集会、講演会等多様な形態の学習事業を市民と市民館が協働で実施する。	1 (150)					6/11～11/12 「家族で学ぶキャンプと防災」全3回											
	市民エンパワーメント事業	市民エンパワーメント研修	市民活動・ボランティア活動に関する学習機会を提供することにより、市民自らが考えながら生活・地域課題等に取り組むことができるように、市民主体の地域づくりを支援する。	1 (48)					9/9～10/7「はじめての絵本作り応援講座」全4回										100周年プレ事業	
		市民講師活用事業	様々な分野において豊富な経験や資格、技術等を持っている市民が、地域の生涯学習における身近な学習支援者「市民講師」として活躍できるよう、必要な知識や技能等を学ぶための育成講座等を実施する。	1 (19)									11/5「より伝わりやすい話し方」							
		P T A活動研修	子どもの健やかな成長を支えるP T A活動のあり方等についての学習機会を提供することにより、各学区や幸区の特徴を生かしたP T A活動の活性化を図る。	1 (32)																
		生涯学習交流集会	いきいきとした幸区の社会教育の展開に向けた、意見交換や成果発表などの交流を通して、市民が主体的に学ぶ地域の生涯学習環境の醸成を図る。	1 (18)															2～3月に実施	

令和5年度 幸市民館 社会教育振興事業 実施計画 ～多様な人と人が出会う“学びの場”づくり～

領域	事業名	事業内容	事業数 (予算:千円) 消費税を含まず	実施計画												備考
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
3 活性化学習事業・市民活動学習事業	学習情報提供・学習相談事業	市民の主体的な学習活動・市民活動の支援策の一環として、様々な学習情報・市民活動情報を収集・整理し、適切な形で公開・提供する。また、求めに応じ、市民及び市民グループなどの生涯学習に関する相談に対し、情報提供、助言を行う。	1 (42)					4月～3月 毎月第1・第3金曜午後 市民館1階ロビー								
								8/4夏休みイベント「3Dメガネを作ろう」								
4 市民・行政協働学習事業・ネットワーク	行政区・中学校区地域教育会議推進事業	行政区・中学校区における学校・家庭・地域の連携による教育への市民参加システムづくりとネットワークづくりを支援・促進し、地域の教育力の向上をめざす。	1 (*)													
	地域学習・文化団体連携推進事業	地域の学習活動を推進している学習・文化団体(サークル連絡会・文化協会・PTA等)とのネットワーク化や事業連携の推進を通じ、市民の主体的な学習活動の活性化、地域の文化や教育力の向上をめざす。	3 (*)													
5 対応学習事業	現代的課題学習事業	現代的、今日的な課題に係わる学習機会を提供し、今を生きる市民の学習を支援する。	1 (50)													
6 市民館学習環境整備事業	社会教育委員会議専門部会	川崎市社会教育委員条例、及び川崎市社会教育委員会議規則に基づき、市民館における各種の事業の企画実施について調査審議を行う。	1													
	刊行・広報活動	(1) 教文・市民館活動報告書、学習記録や調査研究報告書の作成を行い、学習活動や地域情報の蓄積と公開を図る。 (2) 生涯学習に関する情報を提供するため、市民館だより、ホームページなどの作成を行う。	1 (640)													
	情報機器等整備	総合教育センター視聴覚センターの市民への直接的な窓口として、市民館で情報機器等の貸し出しを行う。	1 (*)													

■幸区役所の事業

領域	事 業 名	事 業 内 容	事業数 (予算:千円)	実 施 計 画												備考
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
幸区地域課題 対応学習事業	幸区多文化共生 推進事業	川崎市多文化共生推進指針に基づき、多文化共生に関して生じている地域の課題を具体的に把握し、引き続き増加する外国人市民の生活に根差した課題をサポートする内容を取り上げ、地域課題の解決に向けた取組を地域の人的資源を活かしながら、外国人市民も共に暮らしやすいまちづくりをめざす。	1 (613)	← 実行委員会（通年活動） →												実施内容については、 実行委員会と協議
	市民館コミュニティ 推進事業	「これからのコミュニティ施策の基本的な考え方」に基づく幸市民館におけるコミュニティ推進事業を実施することで、多様な主体が出会い、つながるとともに、市民が自ら地域の課題解決や活動・交流に参加していけるよう支援する。	1 (206)	← 実行委員会（通年活動） → ● 8/4「夏休み基地」												実施内容については、 実行委員会と協議
	幸区御幸公園梅香事業	地域の歴史を知り、地域への愛着や誇りを育むことができるよう、歴史や地名の由来について、学ぶ機会を創設する。	1 (＊)	2月頃「梅料理講座」 ● (仮)												未定

令和5年度 日吉分館事業実施計画及び実施報告

—令和5年9月25日第2回幸市民館専門部会—

1 家庭・地域教育学級

ゆめみ☆学級(全9回) 定員 15 人(保育は 10 人)

回数	実施日	内 容	参加者(人)
1	10 月 6 日(金)	学習の進め方・保育について説明	—
2	10 月 13 日(金)	自己紹介・オリエンテーション	—
3	10 月 20 日(金)	より良いパートナーシップについて	—
4	10 月 27 日(金)	子どもが喜ぶお弁当を作ってみる	—
5	11 月 2 日(木)	夢見ヶ崎動物公園への遠足	—
6	11 月 10 日(金)	バランスの良い食事のとり方について	—
7	11 月 17 日(金)	「大人の塗り絵」を体験する	—
8	11 月 24 日(金)	子どもに合わせた絵本選び	—
9	12 月 1 日(金)	学級のまとめ・今後の子育てについて	—

2 市民館保育活動

「ゆめみ☆学級」参加者向け保育（全9回のうち保育は7回）

10月6日から12月1日に実施

3 子育て支援啓発事業

「子育てパーク・日吉 ひろばであそぼう」定員 各 10 組

・ひよこクラス(0歳～1歳6ヶ月) 第3木曜日(5月～7月、9月～2月全9回)

7月20日まで 3回実施 参加者 延べ17組 34人

・パンダクラス(1歳7ヶ月～3歳) 主に第1火曜日(5月～7月、9月～2月全9回)

9月5日まで 4回実施 参加者 延べ16組 34人

4 市民エンパワーメント研修

「子育てママを地域で応援！～保育ボランティア講座～」(全5回)

定員 20 名

回数	実施日	内 容	参加者(人)
1	9 月 1 日(金)	保育ボランティア活動について学ぶ	6
2	9 月 8 日(金)	子どもの見守り方を学ぶ	5
3	9 月 13 日(水)	子どもと楽しく遊ぶ方法を学ぶ	5
4	9 月 22 日(金)	子どもと一緒に体を動かす	—
5	9 月 29 日(金)	セルフメンテナンスについて・講座の振り返り	—

5 生涯学習交流集会

「さくらフェスタ日吉」 令和6年3月17日(日)実施予定

さくらフェスタ日吉拡大実行委員会 第1回 令和5年9月26日(火)
 第2回 令和5年12月 日()
 第3回 令和6年1月 日()

6 市民自主企画事業

「まちのお茶の間事業」(全5回)

回数	実施日	内 容	参加者(人)
1	6月21日(水)	救急救命講座	9
2	8月20日(日)	ボードゲーム	7
3	10月28日(土)	落語	-
4	12月22日(金)	初心者向け Zoom 講座	-
5	2月23日(水)	Zoom で日本語講座	-

7 シニアの社会参加支援事業

「5感で味わう癒しの講座」(全4回)

アロマセラピー・フラワーアレンジメント

などについて共に学ぶ中で、同世代の仲間づくりに繋げる

12月7日、14日、21日、R6 1月11日 木曜午後に実施予定。

8 地域コミュニティー交流・学習事業

(1) 生涯学習体験教室

竹細工づくり 12月9日(土)

(2) 日吉あそびっ子クラブ(全4回) 定員16名

回数	実施日	内 容	参加者 (人)	スタッフ (人)	ボランティア (人)
1	7月31日(月)	みんなでゲームをしよう	20	3	3
2	8月2日(水)	紙ひこうき大会	17	4	2
3	8月7日(月)	バルーンアートに挑戦	21	4	2
4	8月9日(水)	防災クッキングに挑戦	18	5	3

(3) 夏休み・アニメ映画会

8月4日(金) 10:30~11:45

19名参加

(4) オータムミュージックフェア 11月11日(土) 15:00 開場 15:30 開演
 出演:「なべとギターと。」スティールパンとギターのセッション
 定員:60人(予定)

9 地域課題対応事業 地域資源を活かしたまちづくり事業

「郷土の歴史と文化を活かした日吉まちづくり事業」

歴史講座

※今年度から日吉のタカラモノ活用事業(てくてく日吉等)と統合して実施

「加瀬山と日吉地区の歴史」(全6回を予定)

講義と実地研修を行う

回数	実施日	内 容	参加者(人)
1	10月7日(土)	レクチャー「ふるさと加瀬山」	-
2	10月21日(土)	歴史散歩「加瀬山と鎌倉街道を歩く」	-
3	11月4日(土)	レクチャー「お江戸の食糧庫・二ヶ領用水」	-
4	11月25日(土)	歴史散歩「二ヶ領用水を歩く」	-
5	12月2日(土)	レクチャー「川崎宿と日吉」	-
6	1月13日(土)	川崎宿を歩く	-

10 幸区提案型協働推進事業

幸区の地域ミュージカル創出事業

「かわさきドリームミュージカル～太田道灌と夢見が崎～」

地域の小中学生の出演(ミュージカル・吹奏楽の演奏)を視野に入れている

令和6年から上演に向けた稽古と公演をめざすので、今年度は主に制作準備。

3月16日(土)日吉分館で「さくらフェスタ」プレイベントとして朗読劇披露予定。

3月25日(月)幸市民館にて朗読劇披露予定。

令和5年度 日吉分館 社会教育振興事業 実施計画

領域	事業名		実施計画	事業数 (予算)	年間スケジュール												担当
					4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
	世代別学習活動	シニアの社会参加支援事業	シニア世代等を対象として、地域の課題解決あるいは地域参加に向けた学習機会を提供し、シニア世代等の市民が、これまで関わりの少なかった地域社会での様々な活動に参加できるよう支援する。12月～1月の木曜、全4回を予定している。	千円 1 (76)						12月～1月「5感で味わう癒しの講座」全4回							振興担当職員
	子育て・動共育学習活動	家庭・地域教育学級	2歳～3歳（就園前）の子どもを持つ親子15組で実施。毎週金曜、全9回を予定している。	千円 1 (70)						10月～12月「ゆめみ☆学級」全9回							振興担当職員
		市民館保育活動	家庭・地域教育学級における保育を予定。必要によりほかの事業においても保育活動を実施する。	千円 1 (20)						10月～12月「ゆめみ☆学級」の保育7回							振興担当職員
	家庭・進路支援事業	子育て支援啓発事業	3歳以下の幼児と親を対象に、自由遊び、自由交流、保育士との遊び、育児相談等を毎月第3木曜日（0才～1才6か月・5月～7月、9月～2月）と第1火曜日（1才7か月～3才・5月～7月、9月～2月）に実施。	千円 (0)		5月～7月、9月～2月「子育てパーク・日吉」				ひろばであそぼう（1歳7ヶ月～3歳）第1火曜日（全9回）							振興担当職員
市民学習・市民活動活性化事業	市民エンパワーメント事業	市民エンパワーメント研修	市民活動・ボランティア活動に関する学習機会を提供することにより、市民自らが考えながら生活・地域課題等に取組むことができるように支援する学びを実施する。今年度は主に保育ボランティアに向けた内容となっている。主に金曜日全5回。	千円 1 (70)					9月「子育てママを応援しよう！」全5回								振興担当職員
		生涯学習交流集会	日吉分館及び地域で活動するサークル・個人による学習活動の発表・楽器演奏、舞踊、合唱、紙芝居、読み聞かせ、ストーリーテリング、作品の展示等。	千円 1 (40)					● 9/26拡大		●	●			◎	全職員	
	市民自主学級		地域や社会の課題などの解決に向けた市民の学習の場づくりを、市民と行政が協働して行い、自主的に企画・運営するものとして、生涯学習・市民活動を推進し、地域づくりへの参画を支援する。	千円 未定 (91)		募集をしたが応募がなかった。											振興担当職員
	市民自主企画事業		地域の子どもからお年寄りまで世代を問わず交流できる場を提供し、地域共生や文化などの大切さを学びながら多世代交流を行うことで、顔の見える関係が築けるまちづくりを支援する。全5回。	千円 1 (76)			6月～2月「まちのお茶の間事業」	●		●		●		●		振興担当職員	
	学習情報提供・学習相談事業		学習相談については、随時、受付中。	千円 1 (10)	← 通年												振興担当職員
対応学習課題	地域コミュニティ交流・学習事業		学校・学年を超えた地域の子どもの遊びや体験学習を通じて友情を深め、交流を図る。また、1日体験教室を実施し、それをきっかけにサークル化をはかり、市民の生涯学習振興の要求にこたえる。	千円 1 (60)					● 8月「日吉あそび子クラブ」（全4回） ● 8月「夏休みアニメ映画会」			● 11月「オータムミュージックフェア」 ● 12月「生涯学習体験教室」				振興担当職員	
市民館学習環境整備事業	刊行・広報活動		市民館だよりを年間6号発行、ホームページの更新も定期的に行っている。また、12月からは、活動報告書作成の準備作業に入る。	市民館にて計上			● 市民館・分館だより	● 年6号	● 市民自主特集号		●		●		●	振興担当職員	
					← ホームページ更新（通年）									1月～	活動報告書・要覧作成	→	

令和5年度 日吉分館 地域課題対応事業 実施計画

領域	事業名	実施計画	事業数 (予算)	年間スケジュール												担当
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
地域まちづくり 資源活用 課題対応	郷土の歴史と文化を活かした日吉まちづくり事業	メインのメニューである歴史講座「日吉地区に繋がる歴史と文化について学ぼう」は郷土の歴史のさまざまなテーマに焦点をあてて、コロナ禍で中止していた歴史散歩3回を含む合計6回の講座を実施予定。「日吉の宝物事業」では、「小倉池の玉手箱」の大型絵本化など、地域文化を語り継ぐことに一定の成果をあげることが出来たため、令和4年度で事業終了として、今年度からは事業の趣旨を歴史講座に一本化して実施する。土曜日実施。	千円 1 (172)							10月～1月	歴史講座 全6回					分館長 振興担当職員

令和5年度 日吉分館 幸区提案型協働推進事業 実施計画

領域	事業名	実施計画	事業数 (予算)	年間スケジュール												担当
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
幸区提案型 事業協働推進	幸区の地域ミュージカル創出事業 「かわさきドリームミュージカル〜太田道灌と夢見が崎〜」	住民が地域を知り、地域を語り、地域を愛するきっかけになるような地域の歴史・文化を題材としたオリジナル・ミュージカル作品を制作し、区内の小中学生による上映を目指す。 令和5年度は戯曲の制作を行い、令和6年度より上映に向けた稽古を開始して、年度内の公演を目指す。	千円 1 (293)						台本・音楽の製作				朗読による 3/16(土) 日吉分館 3/25(月) 幸市民館	台本のお披露目 ◎ ◎		分館長 振興担当職員

令和4年度・5年度 幸市民館専門部会 審議計画（案）

令和4年度

回	審議内容	日程
1	・審議テーマの検討	令和4年 6/26
2	・審議テーマの決定 ・審議計画の検討	9/12
3	・審議計画に基づき調査審議①	12/21
4	・審議計画に基づき調査審議② ※市民自主学級・市民自主企画事業の選考	令和5年 2/5

令和5年度

回	審議内容	日程
1	・審議計画に基づき調査審議③	令和5年 6/29
2	・審議計画に基づき調査審議④ ・調査審議のまとめ ・報告書案の検討	9/25
3	・報告書の作成①	12月
4	・報告書の作成② ※市民自主学級・市民自主企画事業の選考	令和6年 2月

令和4年度・令和5年度
川崎市社会教育委員会議
幸市民館専門部会 報告書

「笑顔と多様な夢を育む学び舎を目指して」
～人・つながり・地域づくりを進める幸市民館～

令和6年3月
川崎市社会教育委員会議幸市民館専門部会

はじめに

令和4年度・5年度の幸市民館専門部会では、以下の審議テーマと副題を決め検討した。

- ・審議テーマ 「笑顔と多様な夢を育む学び舎を目指して」
- ・副 題 ～人・つながり・地域づくりを進める幸市民館～

笑顔は、子どもも大人も心配や不安のない心情や状況の象徴である。多様な夢は、地域の理想や計画から、個人の希望や尊重までの広い意味を持つ。それらが、学びの場である幸市民館に溢れ、人のつながりが増して、地域がより住みよくなることを目指すとした。

検討は、以下の手順で行った。

- ・地域が抱える差し迫った課題を探る。
- ・市民館の現在の取り組み状況を知る。
- ・市民館に期待する今後の方向性を探る。

1. 地域が抱える差し迫った課題

(1) 幸区人口等の現状

令和2年（2020年）国勢調査の人口の推移では、2008年をピークに全国的に人口は減少しているが川崎市は1,539,081人と5年間で4.3%の増加率である。幸区においては、総数 171,188人で5年間 増加数 10,298人 6.4%の増加率である。

令和4年度の川崎市統計データブック（令和3年10月1日調査）によると、幸区の15歳未満人口割合は、13.3% 15歳～64歳の人口割合は64.8% 65歳以上の人口割合は21.9%となっている。全市との比較は左の表のようになる。全市では、15歳未満が1.2%、65歳以上が1.5%増となる。幸区は15歳未満・65歳以上が全市から見ると多いことが分かる。

幸区の夜間人口（常住人口）は、171,119人に対して昼間人口は165,154人で昼夜間人口比率は96、5.0%となる。全市では、夜間人口1,538,262人に対し昼間人口1,285,285人で比率は83.6%で通勤・通学で市外へ流出する人が多いことが分かる。

公開：2023年5月12日

令和5年（2023年）5月に公開された人口の動向でも、幸区は、人口増減でも増加になっている。人口数値としては、少ないが人口密度からすると表にはないが中原区に次ぐ2位となっている。

ひとり暮らしの高齢者（第6期幸区地域福祉計画より）

（２）アンケートにみる市民館の現状と期待

平成元（2019）年度 かわさき市民アンケートでは、「市民館を知っている」は63.4%で、「利用したことがある」は42.2%。「利用した市民館」では、幸市民館は14.2%で7区の市民館（分館を除く）の中では最下位であった。

市民館の利用目的では、「ホールでの発表会やギャラリーの展示等をみるため」が40.5%で「講座やイベント、サークルなどの活動に参加するため」が22.2%。

市民館を利用したことのない理由では、「どのようなことができる施設かわからない」42.9%、「そもそも関心がない」26.3%、「参加したい講座等がない」5.7%。

利用してみたい市民館では、「自宅に近い（もしくは行きやすい）場所にある」29.2%、「居心地がよく飲食などができ、居場所としてつかえる」19.3%、「市民のライフスタイルや生活課題に対応した細かいサービスや講座がある」13.3%、「自分の能力を活かした社会参加や交流のきっかけができる」7%、「友人や仲間ができる」5%。

なお、市民の意識として、人付き合いの煩わしさを感じる市民と孤独で人とのつながりを求める市民も存在する。

以上のことから、ロケーションをハンデとしない工夫、より効果的な宣伝や、魅力を感じてもらえる学び等の内容をより工夫することに伸びしろのあることが分かる。

（３）アンケートにみる幸区の現状と期待

幸区高校生アンケート（令和2年度）では、幸区の不満に感じるところ「治安や風紀」が33.1%で最も多く、「教育・文化環境」7.2%、「地域の人間関係、つながり」4.6%、「子育て環境」3.3%。

10年後、『どのような「まち」に住みたいか』では、「災害・防災に関して」は、それぞれ56.2%、「子どもを育てやすいまち」25.9%、「障害の有無にかかわらず、誰もが自分らしく暮らせるまち」18.5%、「社会的に支援が必要な方（高齢者や障がい者など）を支えるまち」13.3%、「外国人市民が暮らしやすいまち」6.3%、「身近な地域の課題を地域で解決する自治意識が高いまち」3.7%。

ボランティア活動に興味がある分野では、「ごみ、清掃、資源などのリサイクル活動」26.6%が最も高く、「子育てに関する活動」22.2%、「国際交流に関する活動」9.6%、「障がい者のための活動」8.1%となっている。

以上のことから、学びの内容に関するヒントが伺える。

2. 市民館の現在の取り組み状況

～幸市民館・日吉分館の学級・講座・事業の現状と分析～

（1）青少年対象の事業等

- ・参加者が、次年度に企画者になって運営にも参画する（日吉分館のあそびっ子クラブ）
- ・インターンシップ等、中学生・高校生が企画者になる事業（謎走中！）
- ・小・中・高等学校との連携

（2）市民館利用団体との連携事業

- ・市民館コミュニティ推進事業
- ・市民館ジャックなど地域教育会議との連携
- ・文化協会との連携

（3）企業等との連携事業（高齢者セミナー等 明治安田生命との連携）

3. 市民館に期待する今後の方向性

（1）課題と解決のために

- ・幸区の人口増、年代別の人口割合、昼間人口から、15歳未満・65歳以上の市民が昼間人口とも言え、その世代への学級・講座の提供が必要であるのではないかと。
- ・市民アンケートからも、既に講座やイベント、サークル活動への参加が目的とあるが、「市民のライフスタイルや生活課題に対応した細かいサービスや講座がある」「自分の能力を活かした社会参加や交流のきっかけができる」「友人や仲間ができる」場としての市

民館を利用したいと望んでいる。

- ・ ~~2-⑥~~ の高校生アンケートで 10 年後のまちとして、「子ども」「高齢者」「障がい者」「外国人市民」「地域の課題解決」ができるまちを希望している。

つまり、子ども・若者・中高年・高齢者のあらゆる世代がつながり講座、事業を実施することにより人生 100 年は各世代ネレーションがつながり、刺激し求めあうことにもなる。

(2) 市民館事業での課題

(3) 幸市民館・日吉分館のあり方や今後取り組む事業

- 1) 市民館で学んだ市民がその成果を発表、次の事業につなげる工夫

「自分の能力を活かした社会参加や交流のきっかけができる」の声等から考える。

- 2) 様々な団体・個人の力と協働で課題解決につなげる誰もが参画できる事業

「地域の課題解決」ができる事業として、世代間交流や大学等高等教育機関との連携、企業との連携、高校生のボランティア活動としての連携。市民・市民団体との協働事業も挙げられる。

- 3) 指定管理者制度導入との教育委員会の方針について

市民へのサービス提供・市民協働事業などを低下させず、これまでの事業を見直し良き事業は継続実施し、実施しなければならない事業については、明確で詳細な仕様書を作成することを強く要望したい。

指定管理者制度導入する場合、「笑顔と多様な夢を育む学び舎をめざして ～人・つながり・地域づくりを進める幸市民館」の必要条件とは。

- ・ 公共機関で実施すべき事業として社会参加・共生推進学習の「障がい者社会参加活動」「識字学習活動」。市民自治基礎学習である「男女平等推進学習」「平和・人権尊重学習」併せて学習権保障のための「保育活動」の維持・継続。
- ・ 市民の学習・市民活動を活性化するための「市民自主企画事業・市民自主学級」、学びの成果を活かす機会の事業。
- ・ 様々な団体・個人の力と協働で課題解決につなげる。(再掲)

- 4) 全ての人のウェルビーイングを実現する、共に学び支え合う生涯学習・社会教、育

に向けて

「第 11 期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」より

- ・ 学び合う、教え合う、助け合う、励まし合うといった相互性に支えられながら、一人ひとりが主体的・持続的に学んでいくという生涯学習は、多様なウェルビーイングを実現するような場を自らも他者との関係性の中で共に形成していくうえで、重要なものである。
- ・ 共生社会の実現を目指す上で、社会参画に制約のある高齢者、障がい者、女性、外国人、貧困の状況にある子ども、孤立・孤独の状況にあるものなどを含め、誰一人として取り残すことのない社会包摂の実現にむけ、関係機関との連携や ICT の利用により、必要な生涯学習・社会教育の機会を提供すること。

5) 公民館の求められる役割について

「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（答申）平成 30 年 12 月 より

- ・ 学習の成果を地域課題解決のための実際の活動につなげていくための役割
- ・ 地域の防災拠点としての役割
- ・ 「社会に開かれた教育課程」の実現にむけた学校との連携
- ・ 「地域運営組織」の活動基盤となる役割
- ・ 外国人が地域に参画していくための学びの場

（４）市民館事業に求めること

1) 課

課題解決のための市民館事業は、地域づくりに活かせることが必要である。

2) 市民館と市民が一緒にできる事を考えていく

- ・ 市民館ができること
- ・ 地域ができること それぞれを出し合って一緒に考える。

3) 市民館の学びを作り出す学習の中に、これまでのライフステージ学習に加えて、普遍的な課題である不登校・孤立・孤独（ひとり暮らし）などを対象とした内容の学習も取り入れる。

4) SDGs 実現に向けた学習

資料 4-3

今回は先日送っていただいた報告書の構成案の小見出しに即して、一委員の意見として□の中に文を書き込んでみました。今後の検討素材に使っていただけましたら幸甚です。

(専門部委員；片岡)

令和4年度・令和5年度川崎市社会教育委員会議幸市民館専門部会の報告書「**笑顔と多様な夢を育む学び舎を目指して～人・つながり・地域づくりを進める幸市民館～**」(川崎市社会教育委員会議幸市民館専門部会令和6年3月予定)の内容構成案に対する意見として

はじめに

今回の報告書のテーマについて趣旨説明をはじめ、今期の専門部会での協議の経過や議論の状況、報告書全体の内容構成に関する事柄、報告書の関係機関の担当者の共有と今後の活用のされ方への期待など、報告書の概要をここにまとめる。

1. 地域が抱える差し迫った課題

(1) 幸区人口等の現状

わが国の今後の人口減少予測を踏まえて、川崎市の人口動態から幸区の人口構成比の特質を浮かび上がらせ、川崎市の中での幸区の特質を多少とも窺い知ることができている。この点から、小中学生以下の幼児を含む子どもの数と高齢期の大人の数が全市から見て多く、通勤・通学で昼間に市外に流出する人口が全市の中でもとても少ない。また、川崎市の中で比較的に入人口は今後も増加傾向が期待でき、人口密度も市内では上位にあることを示している。これらの点から、働き盛りの生産労働人口に比べて、定年退職を迎えた高齢者世代と学齢期の子ども世代が比較的によく住んでいるのが幸区の特徴ということになる。もっとも幸区内でも新興住宅街の集まる地区と平屋の多い地区との間でも多少の人口構成の違いがうかがわれることであろう。日吉分館を利用する周辺に住む区民層と幸市民館を利用する区民層の違いに注目して調べてみるのも面白いかもしれない。日吉分館の周辺住民層は新興住宅地が多いことから、働き盛りの世代が多く利用者の傾向に影響を与えてはいないだろうか。

(2) アンケートにみる市民館の現状と期待

最近の市民アンケートの結果から、市民館の現状と課題を分析している。まず、「市民館を知っている」及び「市民館を利用したことがある」が共に半数以上か半数近いのに対して、「利用した市民館」(分館を除く)においては1割強であり、全市内で最下位という結果となっている。市民館の立地条件(ロケーション)がよくない点が、利用者が伸びない原因の一つにあることは以前より専門部会内でも取り上げられてきてはいる。幸区における高齢者数の増加傾向を考慮に入れると事態は深刻といえるかもしれない。市民館に来て利用する高齢者区民の足が確保できていない現状をうかがわせることになっている。これまで以上に市民館は利用できていない区民の近くにまで出ていき、そうした区民に事業を提供することを考えていかなければならないだろう。たとえば、オンライン事業

を通じた高齢者区民の市民館の利用の促進なども最近は進められている。また、「市民館を利用したことがない」理由で最も多いのが「どのようなことができる施設かわからない」で半数近くに及んでいる。施設利用案内情報の積極的な拡充策と周知徹底が期待されるが、従来の紙媒体による広報活動だけでは限界があり、若年層の世代には SNS 等の電子媒体を活用した広報が必要となるかもしれないが、他方で、高齢者層の世代は一様ではなく、そもそも年齢が高くなればなるほど「世代」で括られるニーズがあるわけではないとされ、一人ひとりの個別性が強まっていくとされる。かつて生涯学習交流集会で発言した区民は 90 歳を超えてパズルを解くグループ活動に参加していて、高齢にもかかわらず、健康で元気を訴えていたことが思い出される。さらに、「利用してみたい市民館」では、「自宅に近い（もしくは行きやすい）場所にある」という回答率が最も多いことから、わざわざ遠出することに抵抗感が見られ、利用のしやすさが求められているようだが、物理的距離だけでなく、市民館と区民との間の心理的距離が遠いということも勘案してみる必要があるかもしれない。市民館の提供する事業に魅力を出すのは容易なことではなく、時代の流行を取り入れたり社会動向に配慮して事業を提供したりするなどの創意工夫も必要であるといえる。一方、たくさんの参加者を集めることが事業の成功と評価されがちではあるが、少数の利用者であっても市民館の事業に長く関心を寄せる区民をいかに確保することができるかを考えていかなければならないだろう。市民館との関係づくりという点で、長い目で見ると、子どもの頃からの市民館の利用が期待できる。市民館の歴史と歩む世代を、親しみを持って長期間にわたって築いていく事業計画が必要になっている。

（３）アンケートにみる幸区の現状と期待

若い世代の関心を市民館や事業にいかに集めるかという点で、幸区高校生アンケートの結果が参考になるかもしれない。幸区の不満に感じるところでは、「治安や風紀」に対する回答率が最も多い。また、10 年後の住みたいまちとして挙げられた回答率の高いものでは、「災害・防災に関して」が過半数を超えている。若い世代ながら犯罪や災害に対する危機意識が高いといえるのかもしれないが、不測の事態に対応に困難さを感じるという点では老いも若きも変わらなくなっているのかもしれない。将来に対する漠然とした不安や心配は誰もが感じることから、高齢期に得られる安定した社会保障制度もいまや変貌を迎え、将来の行方に対して不安を抱え込む社会の中で、人生の長い期間にわたるリスク管理を求める意識が若い世代に芽生えてきているのではないか。重化学工業地帯の一角を占めた川崎市では、工場に勤める労働者が多く、その一部を外国人に依存してきた土地柄である点で、当時から貧困・格差が見られたが、急速に進む都市化の下で不平等な面が見えなくなってきたところがあるように思われる。特に、川崎駅周辺は都市開発がなされ、商店の並びとオフィス街が整然としてきている一方、市街地から外れると構想マンションが立ち並ぶ地区もあれば、昔ながらの集合住宅地も幸区内に混在している。開発が日々進む中で暮らしている若い世代が敏感に感じ取る不安や心配にこたえていく取り組みが求められているのではないか。この点に関しては、若い世代の職業参加を促進する

教育機会の拡充とともに、社会と接点を持ち始めた世代に対し、政治・社会参加の機会をどう育むかという点と合わせて考えていくべき課題と言えるかもしれない。

なお、(2)と(3)とを入れ替えて、(3)を市民館の現状と課題にした方がよい。

2. 市民館の現在の取り組み状況～幸市民館・日吉分館の学級・講座・事業の現状と分析～

(1) 青少年対象の事業等

青少年層を、一人ひとりの固有の興味・関心に基づいて社会に参加させるという、社会参加の機会を市民館が青少年に提供することは極めて大切になってきている。現代は、中高生の世代は受験勉強に励む時期で、社会参加の機会が、兄弟家族の減少など家庭環境の変化もあって、以前に比べて少なくなってきている。地域の青少年団体への加入率が低下してきているし、室内遊びが増える中で、一人でメディア機器を利用して過ごす時間が多くなっている。今でも青少年一人ひとりの学校外での過ごし方はさまざまではあるが、個人と社会を媒介してそれらをつなぐ中間集団が減少するとともに、集団が果たす役割が後退している。青少年の社会参加を育む機会の提供は職員の仕事ではあるが、区民のボランティア・スタッフの協力なくしては成り立たない。市民館の職員と一緒に働ける区民の協力を引き出す事業が必要になっている。青少年の育成にあたっては学校に協力を仰ぐことも必要である。学校から市民館の役割を伝えてもらうことにより、市民館の認知度が青少年層の中にもたらされることが期待できる。

(2) 市民館利用団体との連携事業

かつて市民館を利用している団体数の半分ほどは市民館の主催事業から生まれた団体であるともいわれたように、市民館の運営に協力する利用団体が多かったと聞いたことがある。市民館の主催事業から生まれ育った利用団体らが市民館の事業に協力することは自然なことであったともいえるが、利用団体の側に協力して得られるメリットが見えなくなってきたはいないだろうか。市民館の側でも利用団体に頼ろうとする姿勢があるのかどうかである。市民館が定期的に利用団体との意見交換や交流の機会を持ち、利用団体の声や意見を受け止めようとする気持ちがあるのならば、利用団体が市民館の事業に協力を寄せるメリットが感じられるのかもしれない。市民館も利用団体も共に社会教育の振興に貢献していることを意識できたら新しい連携事業が生まれるのではないか。

(3) 企業等との連携事業（高齢者セミナー等 明治安田生命との連携）

企業等との連携事業は、利用団体との連携事業と並んで、今後は市民館が主催する事業の一角を占めていくことになるかもしれない。企業とタイアップしてテーマを決めて企業から出資される財源によって事業が運営されるということは、事業の企画アイデアが得られる点とともに、事業予算の確保に苦労する行政サイドからも歓迎されるものになるのではないか。他方、企業等にとっても何らかのメリットが得られなければ継続した連携は難しくなると思われるので、連携事業の成果を絶えず共に確認していくことが求められる。

3. 市民館に期待する今後の方向性

(1) 課題と解決のために

人口構成から見える幸区の現状を踏まえると、比較的に昼夜の人口の異動が少なく、16歳未満の区民と65歳以上の区民の数が全市の中で多くみられる点では、青少年向け事業と高齢者向け事業の可能性がうかがえるのである。また、市民アンケートを踏まえると、市民の多様なライフスタイルや生活課題に対応したり、個人の持つ能力を活かさせたりする機会や場面を欲していることが挙げられ、区民の個別多彩なニーズに応えるきめ細かなサービスが期待されているわけであるが、従来の世代別や性別で一括りされる層ごとの事業提供のあり方の見直しが求められているとも考えられるのである。先述したように、長寿化している現代においては、年齢を重ねるほどに、年の取り方や生き方や考え方に多様性が見られる時代となっている。他方、低年齢層の青少年においても、小人数学級実現の期待に見られるように、子ども一人ひとりの発達の個人差や子どもの才能や個性に応じた教育のあり方が問われる時代に入っている。従来の社会教育で尊重された子ども同士という集団形成の視点とともに、子どもの個別の意見に耳を傾け相談に応じる先行世代の存在との関係をいかに育むかという地域社会のあり方を考えることが新たな今後の検討課題となる。これまでの家庭に依存した子育てから、地域コミュニティに委譲した子育てという視点の獲得にある。

(2) 市民館事業での課題

上記のように幸区の現状と課題を考えてみた場合、市民館事業での課題として浮上する点は、一つには、高齢者向け事業における高齢期の発達の個人差に応じた事業の提供である。高齢期の年齢の重ね方は、その人の生き方を反映しており、年相応の更け方もあれば年齢に見合わず若々しく心身を保つ年の取り方もある。その点で、高齢期の課題に応じた事業の企画においてもステレオタイプな高齢者像に基づく学習機会の提供にとどまらず、既存の枠組みに収まらず、何にでも挑戦できる学習機会の提供に取り組むことであろう。二つには、青少年向け事業における子ども同士という集団形成の視点を尊重しながらも、それにとどまらず、有意義な大人との関係を築く視点を取り入れた事業の提供も今後は求められるのではないか。子ども期の発達のあり方も個人差があり、子どもの個性的発達を支援する環境づくりが、学校の場合とは異なって、市民館に期待できるのである。三つには、幸区ならではの点もあるが、比較的に多い高齢者と青少年が共に活動し、交流する機会を得られるようにすることである。世代ごとの価値観や考えを異にしているため、慎重な配慮の下で、個別の出会いや交流の機会を育むことにならざるを得ないだろう。

(3) 幸市民館・日吉分館のあり方や今後取り組む事業

幸市民館にしろ、日吉分館にしろ、市民館の事業の特徴の一つは、職員と区民との垣根が高いところだろうか。特に「問題」という捉え方をするわけではないが、それが施設の物理的距離もさることながら、施設管理者と施設利用者、ひいては市民館と区民との

間に心理的距離となって立ち現れてはいないだろうか。2～3年で異動する市職員と生涯にわたって利用する幸区民との違いでもある。本来、自治体職員の役割は、公平に施設設備や事業を提供することに重きが置かれている。施設利用者の区民にとっては、設備をもっと自由に使いったり事業をもっと多彩に提供したりできたらと思っているところもあるのではないか。市民館をめぐる職員と区民の思いのすれ違いが両者の意識を隔てることに一役買っていることだろう。施設の設備や事業を挟んで職員と区民が対立することもあるかもしれない。そこで、こうした区民との連携を阻む壁を乗り越えるために、今後取り組む事業の一つに挙げたいのは、施設職員と区民利用者を媒介する「中間支援者」の育成と配置であると考えている。職員と区民の間を隔てる垣根や障壁を取り除くには、職員と区民の間に立ち両者を媒介する中間スタッフの存在が欠かせないと思われる。たとえば、図書館に置かれるコンシェルジェ、学校の授業を手伝うアシスタント、大学に置かれるチューター、博物館に置かれる展示解説員等々、ときに無給の施設ボランティアであり、ときに有給の学習支援員である。公民館でも生涯学習支援員等の専門員を置く自治体もあるが多くはない。会計年度雇用職員とも違う有給無給を問わず中間支援スタッフの養成と配置について市民館の事業を通して取り組む時期に来ているのではないと思われる。できたら来る指定管理者制度導入の際の仕様書に取り入れるよう検討していただきたい。

【残された課題】（6月の定例会で出された大塚委員の提案メモより）

* 赤色の点について上記でも多少とも触れたつもりです。

1. 地域（幸区）が抱える課題

- ①住民の高齢化（ひとり暮らし高齢者の増加）
- ②ご近所付き合い町内会、自治会、子ども会の参加率の低下
- ③災害時の避難場所不足
- ④不登校（ひきこもり）
- ⑤子どもの貧困

2. 幸市民館の課題

- ①職員が2～3年で異動となり事業の継続性、発展性に難がある。
- ②建物が古くなってきて、バリアフリーが不十分だったり、内部が暗く感じる。
- ③最寄駅から遠く立地条件が悪いので、立寄り難くなる。
- ④自主企画事業を募集する事業内容の制限がある。（コーディネート力が求められる）
- ⑤働き方改革の課題もあるが職員の数が足りていないと感じる。
- ⑥デジタル環境が整っていない。（ICT活用が不十分）
- ⑦子どもや若い働き手の活動の場が少ない